

## 会長再任の挨拶

岩手医科大学歯学会会長

藤岡幸雄

この度、岩手医科大学歯学会の役員改選において、不肖私が諸先輩方の御推挙を給わりまして、再び会長職の重責をおかすことになりました。省りみましてもとより浅学非才の身であります。その置かれた立場を十分に認識しながら、初心にかえって職責を全うして参りたい覚悟でおります。

私どもの岩手医科大学歯学部も、創設されて以来すでに満15年を過ぎ、本年3月には丁度10回目の卒業生を送り出すことができました。またわが岩手医科大学歯学会も、去る昭和50年の秋に発足して以来、早くも満5年目を迎えようとしております。時あたかも1980年代に突入し、夢と希望の多い新たな時代が到来しつつありますので、昭和55年度のこの年は、いろいろの意味で記念すべき意義の深い年に相当していると考えべきであります。従ってここで是非とも奮起一番して、わが歯学部のためにもまた歯学会のためにも、将来の発展飛躍につながる価の多い年にさせたいものと念願致しております。

この度の役員改選に当りましては、会則の変更が必要とされた関係もあり、すべて本学会の会員が主体となって選出した評議員が主軸になっております。従って役員になる会長も幹事も、新しく選ばれた評議員から選びだされたか、あるいは推薦されて決定した形式が取られております。すなわち従来の学部本位ないしは講座単位の学会から、会員のための会員による会員の学会として大きく脱皮を試みたところに、非常な意識があると思われれます。なお評議員の数も極力少数にとどめ、幹事も各部門で1名宛にして、少数精鋭での能率向上を図っております。

今回学会において新らしく推薦された評議員は、主として学外の方であります。これは学会の今後のことを考えたからでありまして、学会のためにこれ迄多大の貢献を給わった方、および卒業生として地域の指導的立場にある方を、優先してお願いしております。近時各地において本学の歯学部同窓会が発足しておりますが、

これらとは密にタイアップして、お互い協力しながら進展を図る必要があると痛感しております。

私どもの歯学部におきましては、学部創設以来の悲願であった大学院歯学研究科の設置をいよいよ決意し、今秋11月末の申請、来春4月始めの発足を目指して、鋭意その目的の達成がかなえられるように図っておりますが、設立認可のための大きな条件として、所属学会の実績、実状が強く影響を及ぼしますので、その点は今後とも十分に留意しながら対置していく所存でおります。

本学会のあり方および今後の進め方などについて、過去2回すなわち昭和52年7月発刊の第2巻第2号および昭和54年3月発刊の第4巻第1号に私見として3つの点について述べておりますが、第1点の「この学会が現在専門化された歯科医学のまとめの役に立つようにしたい」、第2点の「学会のオープン化を図り地域医療に密接したものにすべきである」、第3点の「この学会を将来性豊かなものにしなければならぬ」という諸事項については、村井副会長を始めとする役員の方々の絶大なる御尽力、ならびに会員の諸先生方の過分の御協力によって、ほぼ満足すべき方向に前進しているように思われます。

最後に、この学会が初期の目的に向かって力強く発展し、かつ会員諸兄が末長く御健勝であられることを祈念致したいと存じます。併せて関係各位から寄せられた多大の御援助に感謝しながら、会長に再任になった挨拶に代えさせて頂きたいと存じます。